



デミール・モードスタイリングカレッジ原宿校の坂本真恵氏。

年々、細分化が進む職業や資格。カリキュラムの変更などに文科省等の認可を必要とする学校法人では、要の目のように変化していくその流れに対応していくのは難しい。

ヒエーマンアカデミーで開講しているファッション系の講座は「ファッションデザイン専攻」「ファッションビジネス専攻」「スタイリングアーティスト専攻」などの5つ。そこから、ファッションデザイナーやスタイリストのような技術系から、バイヤーやストアプロデューサーなどの実務系まで、実に、15以上もの職種に向けた講義が行われる。講師を務める岡崎由美子氏は、「ファッション業界は狭き門です。タイミンクの問題も大きいですが、なかなか希望通りの職業につくことは難しいと言えます。当校としてはできる限り、ファッション業界で就職できるようにサポートしています」と語る。しかし、そんな難関を突破する生徒を見ていると、普段から講義で学んだことを貪欲に実践している生徒、そしてその中でも特に「気配りができる」という生徒が多いという。「スタイリスト業界は徒弟制



(上)タブレットで服飾を習得 (中)パソコンを使ってデザイン実習 (下) 制作中のボウタイトの講座「ビューンアカデミー・モードスタイリングカレッジ原宿校」

社会人を経て、専門校に通う人が増加の傾向・転職も有利か

講師 特に専門誌制作において欠かすことができないのが、その分野に精通した「スペシャリスト」の存在である。ここでは「衣」「食」「住」という3つのテーマに絞り、注目してみた。それぞれの専門学校などに集まる人とは、どのような人ならなのだろうか。また人気の職種は、何なのか。「教育」の現場から、出版界を支えるスペシャリストの人気の背景を探る。

最も注目すべきは、個々の実力が問われるシビアな世界でありながら、どの業界でも専門職としての技術だけでなく、「人間性」も求められるということ。さらに社会人を経て



パシフィックデザイン研究所の「雑誌スタイリング」の講座風景。最新カメラで、写真の魅力を学ぶ生徒。

なぜ人気!? 雑誌を支えるスペシャリスト

度のような部分もあって、プロとして取り立ちするためには、雑誌となる人を見つけて、そのアシスタントになるのが一番の近道なんです。ただし、アシスタントという仕事は、周囲に対して気配りのできる人でないと務まらない。そのため、プロからスカウトされるのは、きまってる気よく利く生徒なんです(以下、談話は岡崎氏)。

ファッション業界にはどこか職人気、というイメージもあるが、逆に使われた「人間性」が業界全体を支えている最低条件となっているのである。

しかし、そうした業界の現状を受けて、近年生徒の志望する方向性が変わってきている。「ファッション系のクラスで最近目立ってきたのは、デザイナーやスタイリストではなく、バイヤーやマーチンデザイナーなど、

マーケティング方面の職業を目指す生徒が多くなってきたということですね。

その要因のひとつは、近年メディアアライメントが増えてきているということだ。たとえば「雑誌でバイヤーの特集記事などを読んで、それをきっかけにバイヤーを目指す」という生徒もいます。また、「セレクト」たちのパーティーの記事を読み、そのパーティーの主催者の中心的存在であるファッション企業のプレス(広報)に興味を示す生徒もいるようです。

学生が、より「華やか」な道を選ぶようになり、生じた変化と言える。

生徒の年齢層も変化してきている。現在、全日制のコースでは高卒の生徒と、大卒または社会人出身の生徒の割合が、6対4くらいで、後者の数は年々増えてきているという。ま

た、就職率も後者の方が若干良いとのこと。年齢的なハンデよりも、むしろ人生経験を積んでいることの方がこういって専門職にとっても有利に働く。

「受け入れる側も30歳までならハンデとして考えていないようです。この業界で大切なのは、技術はもちろんですが、やはり人間性ですから。これからファッション業界を目指す人は、そのことを意識して臨んで欲しいですね。」

スタイリング技術も「仕事」に応用する傾向も

「衣」をコーディネートする仕事には「フード・コーディネート」「ブリード・スタイリスト」という2つが存在する。前者は、食事のメニュー

スタイルへ入学する人が年々増加してきており、「経験を活かして同業種内で」というかつての転職像からの変化もうかがえる。また、新卒からスタイリスト業界を目指すよりも、社会人経験を持つ転職者の方が、受け入れられやすいという傾向もあるようだ。

同じスペシャリストである編集者にも、今後同様の波が押し寄せてくるのかもしれない。

スタイリストは厳しい? バイヤーやプレスに移行

「カンパニースタイルという形態の拡大の特徴は、時代と共に移行変わる世の中のニーズに対して、臨機応変に対応できるということです」と語るのは、総合学園ヒューマンアカ